



私たち夫婦が結婚して、あと数年で五十年を迎える。迎えられるかどうかはともかくも、よくここまで共に生活をしてこられたものだと感慨深い。

深い愛があったからか、それとも強い忍耐力があったからか。いずれにせよこの年になると互いが欠くことができない存在になってきたことに間違いはない。

それではどう大切なのかと思えば、自分の勝手な都合に突き当たるだけで、一人になることの寂しさや、現実的な生活への底知れぬ不安が止めどなく沸き起こってくる。自分が先に逝けばとも思ってはみるが、やはり自分の身勝手さだけが顔を出す。そして何より死ぬのが怖い自分がいる。

「人間はただ電光朝露の、ゆめまぼろしのあいだのたのしみぞかし」また「まことに死せんときは、かねてたのみおきつる妻子も、財宝も、わがみにはひとつもあいそうことあるべからず」(お文 第一帖 11通)十分頭ではわかってはいるのだが、煩惱まみれで、迷ってばかりの人生に「ほんとうに大切なことは何か」。その応えが切迫されている。

今を大切に

H・I

地元のサロンに参加したとき、保健士さんからこれからの高齢者は「教育」と「教養」が大切であると聞いた。これはサロン行く「教育」ところがある「サロン用事 教養」があるというわけ。今の老後の行動を分り易く理解できる、的を得た言葉だと思つた。

これには高齢化社会に自分の居場所があるか一つのポイントがある。一つ目は家庭に自分の居場所があるかである。私には毎日行く場所がある。両親の墓参りと畑で、そまで行くのに散歩は欠かさない。散歩は墨俣の草花など自然と人との触れ合いがあり、地域社会の人との話が広がる。毎週一回はジムとプールに行く、畑の仕事、庭の草取り、剪定など自分の健康維持にもつながる。他に時間があれば外へ出かけるようにしている。買い物、近所の温泉、食事、山登り、カラオケ、旅行などその他趣味など考えればいくらでもある。

二つ目は、地域に居場所があるかである。十年前に設立したすのまたまちひくの倶楽部「清掃、あじさい管理、イベント手伝い」の活動に関わり、各種会議出席、公園の草刈りなどのボランティア、サロンの参加、老人会活動など地域の皆さんと交流など様々である。昨年の半年間毎日の用事行先の件数を記録してみたら、最高は一日八件あったことが数日あり、平均すると四〜五件前後である。それでも時間をとめておく必要がある。

これを人に押し付けるつもりはないが、体力が衰えてくると、今まで培ってきた人間関係は簡単に切れることもできないため、元気なうちにこれら楽しみながらやれるのも今しかないという気持ちでやっておく。

仕事を離れたら、好きなことがやれる「時間をもてあそび、やることが見つけられない」「二日テレビを見てボヤッとしてくる」といふ仕事を辞めた途端、空白の時間の大きさに心身の失調をきたしてどうしていいかわからない「行くところも、用事もない」という人をよく聞くが、これはストレスの原因となる。高齢者にはストレスは禁物である。

これから、思いついたら今日といつ日は今日しかないので、後で後悔しないためにも今日中に行動するように、「今日」といふ言葉を最高に人生に生かし続けたいと思つている。とはいっても、いつの時代でも「教育」と「研ぎ澄ました教養」が大切なことは確かなようだ。

今年も多くのご縁をいただきました。(観梅会・秀瑤書院展・日本画展・つり雛)



ライトアップ



境内の様子

三月十一日
月と、その

満開の飛龍梅



秀瑤書院展
テーマ 円窓草花譜



日本画展

K-T



今月の掲示板

金子みずゞ

散ったおはなのたましいは
み仏様の花ぞのう、
ひとつのうさぎまねるの。
だっ、お花はやさしくして、
おてんとさまがよぶとき
ばこひらいてほほえんで
ちよつちよつにあまいみじをやり
人にやにおいをみなぐわして
風がおいひつよぶとまねて
やはりすなおいしうてめき、
なきがらもえも、ままいしの
うはんになしてゐるかの。

花のたましい

朝から雨の一日となりまし
たが、多くのご参詣をいただ
くことができました。
この日はお釈迦様の出家の
縁となった四門出遊の紙芝居
をご紹介しながら、若坊守が
法話をしてくれました。
仕事で直接関わる老人との
出会いに仏法を確かめるご縁
をいただくことが多いよう
です。



春季永代経勤まる 三月二十一日

本山研修

—9月29日(土)~9月30日(日)—

一泊二日

主な日程等のお知らせ

親鸞に出逢う。

御真影のもと、ともに聞こ
う親鸞の声、仏の願い。

二十九日(土)

集合場所 光受寺駐車場

集合時間 七時二十分 出発七時三十分

多賀SA 一休憩—

本山着

入所

研修 基本日程)

三十日(日)

研修 基本日程)

三時二十分〜退館

延仁寺または青蓮院へ参詣予定。

十九時半 墨侯着予定

参加費用 一万五千元

内訳

冥加金…一万三千元と米代 八百円

※冥加金七月より三千元上がります。

バス代…一万一千四百円

(二十人参加の場合)

その他記念写真 拝観料代等を含む

参加人数が十名以上あれば決行いたします。

費用の追加はいたしません。(※切六月下旬)

不足分が出た場合、バスは門徒会より、十万

円以内での補助をしていただくことが総代会で

決定いたしております。(三月六日)

参考資料 バス代金 二十二万八千五百八十円

参加人数等確定後、日程等の詳細は七月号か

八月号でお知らせする予定をしております。

多くのご参加を願っています。